

ふもと 織姫山の麓から

法玄寺報

第45号

令和4年春



役員会総会と新年会



去る1月9日の日曜日午後6時から、当山の役員会総会と新年会が蓮岱館で開催されました。昨年は新型コロナウイルスのために開催できませんでしたでしたが、今年は年末年始と感染が収まっていたので開催の運びとなりました。本来ですと、寺の総会と新年会は第3日曜日に行うのですが、今年は16日にあたり当山が兼務する利性院の閻魔大祭と重なるために1週間早めました。その後、オミクロン株の感染が広まったことを考えるならちようど良いタイミングでした。

総会では、小泉総代が司会を務めました。小沼総代の挨拶に続き、住職が昨年度の活動を報告しました。

その後、新年会に移りました。深井総代の発声で乾杯をして華やいだ新年の宴が始まりました。途中、足利商工会議所会頭を務める相馬総代のスピーチがありました。昨年大河ドラマ『晴天を衝け』の主人公である渋沢栄一がパリに留学中に商工会議所の存在を知

り、帰国後に東京商工会議所を設立したことなど、タイムリーな興味深い話でした。

何しろ、新型コロナウイルスが広がって以来、忘年会、新年会、歓送迎会などの集まりがほとんどなかったため、役員の皆様も大いに話が弾み、久しぶりの新年会を楽しみました。最後は、司会の小泉総代の手拍子で中締めを行い、楽しい新年会を終えました。



新年会での乾杯

櫟の枝打ち



庫裡の裏手にある櫟の大木の枝が前面に大きく張り出してききました。以前、コナラの木が倒れて墓地に大きな被害がでたことを考えて、早めに突き出た枝を切ることにしました。

山の墓地なので重機が入らないうえ、切った枝が下に落下すると墓地を損傷します。そこで今回も空師と呼ばれる中澤重雄さんに依頼して枝を切ってもらったことにしました。葉があると切りづらいため、葉を落とした冬に行うことにして、2月の中旬

に2人の仲間と枝を切りました。中澤さんは一人でチェーンソーを持って木に登り、枝を切るごとにロープに繋いで降りし、下で待機する仲間が枝を受け取りました。さすが空師と言われるだけに、ちよっと真似ができないような技でした。



櫟の枝打ちをする空師の中澤さん

お盆とお彼岸の車の出入り



普段は、山門と西門は歩車分離になっています。山門には結界が置いてあり歩行者専用で、車は西門から出入りします。

しかしながら、お盆と春秋のお彼岸の際には車で境内が混雑するため、境内を一方通行にします。

山門・車の入口専用

西門・車の出口専用

車は山門から入り、西門から出ます。なお山門の結界は移動してあります。またこの期間中、西門には『車出口』と表示されています。寺報を届けていない兄弟や子供さんにもお伝えください。

なお寺報の内容は当山のホームページでもご覧になれます。



お盆とお彼岸では、車は山門から入ります



お盆とお彼岸には、西門は出口専用です

三十三観音巡り盛況



以前に寺報でお知らせしましたように、足利三十三観音霊場巡りが行われています。当山は第十番札所になっており、

白梅の香に誘われし 法玄寺

織姫の麓 弥陀光射す

の御詠歌も作られました。

幸い観音巡りは好評で、多くの方々が御朱印を請けに

ています。足利

市内の方が多い

ですが、中には

小山や宇都宮あ

るいは加須や熊

谷から来た方も

おりました。春

になり暖かくな

りますので、興

味のある方はせ

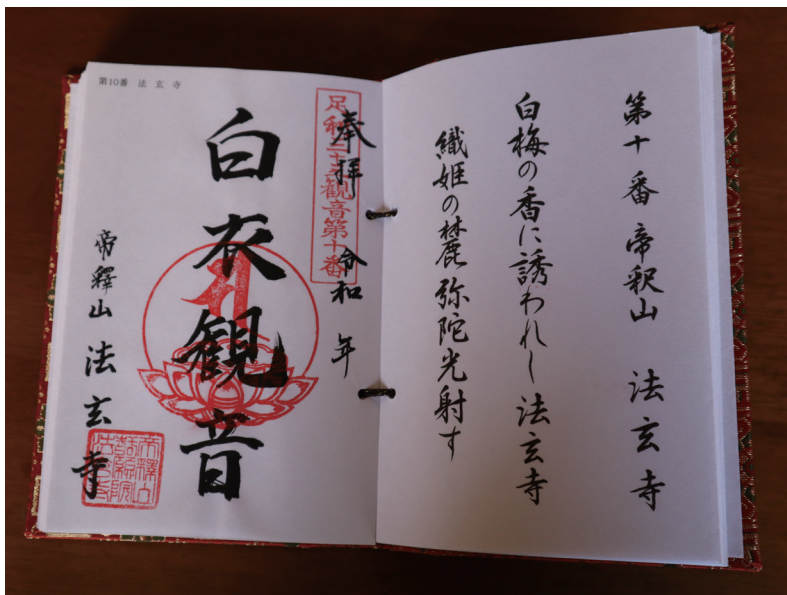
ひご参加くださ

い、なお御朱印

帳は当山にて求

めることができ

ます。



当山の御朱印と御詠歌

パンフレットと雪景色



今年は例年になく厳しい冬でした。関東地方でも雪が2回ほど舞い、そのたびに天気予報では雪の情報とともに、公共交通についてのニュースが報じられました。しかし首都圏で雪が降った時でも、足利では降りませんでした。ところが立春を過ぎた2月18日の早朝、久しぶりに足利で雪が降りました。午前中の早い時間に天気が回復して雪はすぐに溶けましたが、しばらくの間は雪化粧した境内を見ることができました。

当山のパンフレットを3年前に作りました。表紙には雪化粧した本堂の写真を使いました。足利は雪の降らない地域ですが、雪化粧した光景は美しいのであえて使いました。なおパンフレットをご覧になりたい方には差し上げますので、お越しください。

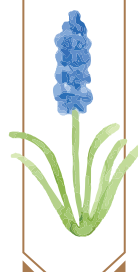


パンフレットの表紙 雪化粧した本堂



2月18日に雪化粧した境内

三富さんの表彰



檀家の三富敏夫さんが受勲されましたのでお知らせします。三富さんは自衛隊に長年勤務して、国連の平和維持活動（PKO）などの海外での危険な任務を行ってきました。そのため受勲は原則70歳以上なのですが、例外的に61歳で令和元年5月21日に瑞寶雙光章を皇居で受勲しました。

三富さんは、日本最初のPKOである平成5年（一九九二年）から翌年にかけて行われたカンボジアでの活動に参加しました。約五百人の部隊で参加して、橋や病院などのインフラ整備を行いました。停戦が成立したとはいえ、文民警察が2名も殺されるような危険な状況で仕事を行いました。

また東日本大震災の時など、練馬の師団本部に身を置き、福島における自衛隊の活動に指示を出しました。このような功績が認められ今回、令和天皇はじめての叙勲になりました。



瑞寶雙光章を受勲した三富敏夫さん

相州楼と李殿下の間



足利の老舗の料亭として知られる相州楼は当山の檀家です。ここには李殿下の間があります。李殿下については、朝鮮の李王朝の子孫で日本の皇族が嫁いだことは知っていました。この度、林真理子さんによる『李王家の縁談』という本が出版されました。この本を読んで初めて李殿下のことが良く分かりました。

皇族の梨本宮伊都子^{まさこ}が長女の方子の嫁ぎ先を探しますが、皇族や華族ではなかなかふさわしい相手が見つかりません。そこで李王朝の子孫であり、日本で軍人になっていた李^{りゅうん}殿下に嫁がせます。大正時代における天皇や皇族華族の世帯とともに、日本と併合された朝鮮との複雑な関係もよく分かります。やがて二人は大正、昭和と激動の時代に翻弄され終戦を迎えます。

このような李殿下が相州楼に滞在していたことは、織物で栄えた足利の歴史を物語るものです。



林真理子さんの本



相州楼の李殿下の間